

議員と話す会報告書

開 催 日 時	令和7年5月15日（木） 午後7時～午後8時20分	
開 催 場 所	飯南産業文化センター	
班 名	3班	
出 席 議 員	代表者 <u>小川 朋子</u> ① <u>久松 倫生</u> ② <u>沖 和哉</u> ③ <u>楠谷 さゆり</u> ④ <u>松本 一孝</u> ⑤ <u>吉川 篤博</u>	
	司会進行者	久松 倫生
	報 告 者	小川 朋子
	記 録 者	吉川 篤博
参 加 人 数	12名	
意見・要望等 主な質疑応答	別紙のとおり。	
代表者の所感	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 中島 清晴 様

令和 7 年 5 月 27 日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

3 班

代表者 小川 朋子

意見交換

【テーマ 日頃感じていることを何なりと】

【開催形式】

(ワークショップ形式 2班)

【A班 意見等】

(1)コミュニティバスについて

- ・移動範囲が飯南だけというのは不便。
- ・免許返納している人も多いし、これでは病院への通院、生活もできない。
- ・乗り換えも足が悪いとできない。
- ・大石を中心にして、大石、飯南、飯高を一つの地域として町づくりを考えてほしい。この3つの地域が別々では社会資源が少なすぎる。
- ・交通は産業部ではなくて、福祉部の管轄にすべき。

(2)人口減少と町の消滅の危機

- ・負の連鎖が加速度的に進んでいる。
- ・独居老人が増えており、結果的に空き家も増加。
- ・耕作放棄地が増えてソーラーパネルばかりが増えている。
- ・獣害被害が多い。特に猿。
- ・空き家バンクは行政のアリバイづくりにすぎない。
- ・人口が減ったことをマイナスにばかり考えないで、何か良いことを考えよう。
- ・子どもたちに希望の土地といかに考えてもらえるか。

(3)ディズニーのパレードをどう考えるか

- ・議会が何を審議したのか疑問。
- ・予算の中身で、項、目、節は市民にはわからないから、ちゃんと質疑してほしい。
- ・決算はよいが、予算審議はもっと突っ込んでほしい。

(4)防災について

- ・飯南・飯高地域は能登半島の状況に近いように思われる。
- ・大地震が起これば、道路の崩壊などで孤立する可能性が高い。
- ・地域の自助、共助が求められるが、高齢者が多く、限界がある。

【B班 意見等】

(1) おくやみコーナーについて

- ・高齢者から見て、ワンストップをうたっているが、受付窓口から移動しなければならず、担当者が来る、市民に優しい行政にならないか。車椅子の方は移動に困る。大きな課題。来庁者に優しい仕組みを作る。

(2) 老人福祉センター「松寿園」について

- ・今年の12月に閉園するが、行政の怠慢である。無料で送迎しお風呂にも入れる施設であり、お金が必要ない施設をなくさないでほしい。地元や使用者との協議が必要。新しいものを作ってほしい。跡地の利用や売却してその予算を有効利用してほしい。

(3) いろいろなこと

- ・道路のひび割れを直してもらったが、家の前で止まった。
- ・松阪中央総合病院と薬局の間に横断歩道がなく危険である。横断歩道が必要。
- ・殺傷事件が増加しているが、減らす方策は。
- ・交通死亡事故が多発しているが、対策はしているのか。
- ・コミュニティバスの使い勝手が悪い。ピンポイントで迎えに来られるシステムは作れないか。
- ・救急車の乗り心地が悪くなんとかならないか。

(4) 福祉まると相談室について

- ・母親が認知症。認定の手続きが複雑。父親にもデーサービスを受けるように息子が説得するように言われるが。

(5) 地元のことについて

- ・国道ののり面の除草作業がなかなか行われない。
- ・エバーグレイスキャンプ場の川底が土砂がたまって島ができている。
- ・エバーグレイスの男子トイレ1つが使えないままになっている。
- ・中学生が和式トイレが使えず困っている。洋式トイレにならないものか。

(6) 防災について

- ・災害時のリストが各自治会に伝わっていない。各自治会への支援計画や防災訓練を各自治会に任せているが自治会ごとで大きな差がある。
- ・年に1回の自主防災訓練を行っているがマンネリになっている。

【課題・問題点】

- ・例年のようにテーマを決めてあれば話しやすかった。

【代表者所感】

自由参加型のワークショップ形式で、地域の皆さんから多岐にわたるご意見を伺った。

移動の不便さ、人口減少への不安、防災への備え、日常のちょっとした困りごとまで、本当に幅広い声が寄せられ、地域の現状を改めて肌で感じる機会となった。

特に、「大石・飯南・飯高を一体として考えてほしい」「交通は福祉の視点で」といった声には、現場の切実さと同時に、前向きな町づくりへの願いがにじんでいた。

また、空き家や耕作放棄地、獣害といった課題に対しても、単なる“減少”ではなく「この状況をどう活かすか」という建設的な視点を持っている方が多かったことに感銘を受けた。一方で、「ディズニーパレードの予算審議はどうだったのか」「予算の中身を市民が理解できないまま決まっていなかったか」といった、行政の説明責任や議会の審議のあり方についてのご意見もあり、議員として、もっと丁寧でわかりやすい説明を求め、必要な議論を深めていく責任があると感じている。

今後は、事務事業評価をしっかりと活用し、予算と決算の整合性を検証しながら、市民の皆さんに納得していただける市政運営になるよう、全ての議員で議論していく必要性があるのではないかと。

地域の声に正面から向き合い、ともに考え、行動していくこと。それが、これからのまちづくりに欠かせないと実感した一日だった。

議員と話す会の様子

